

目 次

□ 英詩に現はれたる婦人の位置	齋藤 勇
□ 倭繪につきて (續き)	下村三四吉
□ 春日野にて	尾上柴舟
□ 龍雲山莊十小記	細田劍堂
□ 教育者たらんとする我等	
□ 旅行	
□ 和歌	
□ 消息	
□ 會計報告	
□ 會員諸君へ	

英詩に現はれたる婦人の位置

齋藤 勇

英詩に現はれたる婦人の地位。これは英詩に現はれた女性が男性に對して如何なる地位を有するかと云ふ問題である。

自分は女を解しない。又男をも知らない。人間といふものがわからない。即ち自分を知らないのである。我が魂をさへ知らない者が、婦人について話すやうに約束した事を悔いてゐる。

しかし、女も男も人である。故に女としてでなく、一個の人として、自分の思ふ事を述べよう。さうすれば、何か胸底に訴へる所があるかも知れない。今英詩にあらはれた婦人の詩を、大體年代に従つて話さうと思ふ。しかし一々委しく話す事は出来ないから、代表的詩人について點檢しよう。いづれの文明にも文學にも多大の背景がある。英國近世の文學にも亦背景がある。

中世紀の思想は近代に影響を残してゐるが、武士道の一特色である、婦人に對する尊敬、即ち、老若地位に關はらず、一人のレイデイに對し、結婚の如何に關はらず、ナイトが忠誠を捧げるといふギヤラントリの考へが、近代の思想に入り、文學にも多大の影響を與へた。今日英國では男女同權を殊更唱へる必要もなし又これに反對するものもないが、かうなるまでには、大なる歴史がある。

シエイクスピアは、英國や歐羅巴ばかりでなく、おそらく世界に於ける最大の作者だと思ふが、この人ですら、女子は男子におとると考へてゐた。

『ヴェニス商人』に出てくる賢明な婦人ポーシャ、即ち猶太人シャイロックを説き伏せた程の雄辯才智を持つてゐる婦人がバサーニオウといふ一人の男から結婚を申し込まれて、それを受け入れた時に云つた言葉を見れば、決して、シエイクスピアが婦人に對して大なる期待をもつてゐたとは云へない。ポーシャは、自分分は才智容貌學識が缺けてゐるのを悔いてゐる。けれど、幸にして年を取り過ぎて學び得られない程年よりでなく、學んで學ぶ事が出来ない程愚鈍ではない。一番幸な事は、優しい心であるから、貴君に一身を捧げて、殿様か王様かのやうに仕へるであらうと云つてゐるが、日本でも旦那様とは屢々聞く事である。これは婦人から云へば謙遜な態度を現したやうなものではあるけれども、男子から云へば、婦人の地位の餘りに卑く見過ぎてゐる言葉だと思ふ。或は男子からかやうな言葉を用ゐさせたものとすれば、まだ男尊女卑である。シエイクスピアは、當時の代表的思想を以て立つた人で、獨創的思想を以て世を指導しようと思つたのではない。この點に於て飽き足らぬ所がある。彼れの作中で最も才色兼備の婦人がかく云つてゐるのであるから、推して知るべしである。又同じ作者に、『悍婦馴らし』と譯されてゐるが、手にもおへぬ女と結婚して巧みに馴らしてしまふといふ話がある。シエイクスピアは貞操の觀念に於ては稍々ルースで、我々から見れば、もう一息といふ所がある。『以尺報尺』のイサベラが誘惑を受けた時斷然はねつけたが、もし聴かない時は兄弟が殺されるといふので他の一人の婦人を之に代らしめてゐる。『終りよき皆よし』のヘレナも結婚してゐるが、夫の不行蹟に對して最も嚴肅ではなかつた。シエイクスピアは、かくの如く婦人に對してゐるが、こんなことは、我が國に於て屢々見る事である。所謂名士が死んだ時新聞記者がその人の若い時の不品行を恰も手柄話であるかの如く、書き立てるよりはましかも知れない。オセロに嫁いだデズデイモナの如きも、多

くの點に於て婦人の徳を表してゐるが、エンノープリング、バファを充分には持つてゐない。

これが、シエイクスピアとダンテと異なる所である。ダンテの『神曲』のベアトリーチエは此の世にながらへた時も、死んだ後も、ダンテを導き、地獄に送り、煉獄を経て天上にまで經めぐらしめた。そして地獄と煉獄ではヴァーヅルといふ羅馬の詩人が案内したが、天國ではヴァーヅルの資格が失せたので婦人自ら下りてダンテを天上に迎へ、天上の光榮を示した。即ちベアトリーチエはダンテを常に高く導いたのである。

エドモンド・スペンサの『フェアリ・クウィーン』女王に於てグロリアナが年に一回十二日間宴會を開き、毎日一人づゝ勇士を武者修業に出すのであつたが、ある時ユーナといふ婦人が鎧を持つて出て来て、私の父は惡魔の爲に、黃銅の城中に閉ぢ込められてゐるから、どうか立派な武士を出して父を救ひ出して下さいと願つた。その時、宮庭にゐた百姓が、つか／＼と進み出でてその役を私に命じて下されと云つたが、先ユーナが第一に聴かなかつた。けれど、若しユーナが持つて來た甲冑を身に着けて相應しければ頼まうといふので、着けてみたのに、威風堂々として並み居る武士も匹敵するものがない程であつた。その鎧の胸の所に赤い標があつたので、『レッド・クロス・ナイト』といつたが、さて直に二人は旅立ちして種々の誘惑に遇つた。度々レッド・クロス・ナイトは破れて絶望に陥り、ジアイアントに出會はしたり、絶望の洞に陥つてまさに斃れやうとした時、これを導いたものはユーナである。これはチヴァルリ又はブラトーン風の愛の老人から來たのかも知れない。そのスペンサでさへ男女同權ではなかつた。婦人は男に従ふべしとこの詩の後の方に斷言してゐる。

ビユーリタン時代即ちクロムウエルの時代は、必ずミルトンを聯想せしめる。ミルトンは高尚なる道德的

思想を表明して、それが爲に精神上にも肉體上にも戦つた。かくの如きもその家庭は悲惨であつた。初めの妻はカトリックで考へが違つた上、ミルトンの天才を理解しなかつた爲に離縁した。これが爲に、ミルトンは大いに批難された。二度目の婦人は立派な婦人であつたが、早く死んだ。そして三人の娘は孝養を盡す娘ではなかつた。彼れが兩眼の明を失つて、天才の作を筆記させる様は實に悲惨を極めた。『失樂園』ではアダムとエバが人間の始祖を描いてゐる。その關係は、アダムが主で、エバが従となつてゐる。それに彼等はその性が違ふから力が違ふ。アダムは冥想思索し、エバは優しさ、心地のよい人目を惹くしどやかさの爲に造られた。『彼は神の爲に、これは彼に於ける神の爲に』造られた。かくの如くアダムを主とし、エバを従として、アダムは自分の優れてゐるのを知つてゐるけれど、エバを見れば、自分の心は溶けるやうである。彼女の優しさの中に畏敬の念を起させるものがある。これあたかも天使の彼女を守るやうである。即ち婦人の優しい中に犯すべからざる威嚴を存してゐると、いつてゐる。この思想をミルトンは『ユウマス』にも書いてゐる。三人の兄弟の中、レイディーが森の中で悪魔に誘惑され、毒の盃を飲まされようとした時二人の兄弟が悪魔を斃し婦人を救ふが、その中にも婦人の貞操を力説してゐる。シエイクスピアからミルトンに來ると、次第に道徳的思想が深くなつたが、まだ十分でない。十八世紀は文學も振はず詩も振はない。古典因襲の時代であつた。その間に婦人問題は如何に取り扱はれたかといふに、婦人は化粧し、着物を着かへ、骨牌を取り、夫の歸りが遅ければ、自分も遊びに行つてかまはぬといふ風であつた。

小説家として有名なダニエル・ドイフォーは、種々の事をやり、目が廣い。彼の道徳思想は高い者とは云はれないけれど、婦人觀に一見解を有してゐた。||六九三年にウイメンズ、アカデミを創立する案を立てたが

これは實行されなかつた。これも小説家なる後ステイルがこの後を受けて運動したが、これも顧みられなかつた。十八世紀中葉にモンタギューといふ夫人があつて、自分の家や朋友の家に多くの人を集め、骨牌を取る代りに讀書をし、男子と同じ話題で論じ合ふ素養を備へるやうにした。かゝる席上では黒の靴下を用ゐるのが例であるが、こゝに集る人々は、黒の絹の靴下をはかずに、青の靴下を用ゐた。これが女流學者青踏社の始りである。これが婦人問題を高めるには大なる功があつた。

十九世紀の半に女子大學ができた。一八四八年それを建てたのは、フレデリック・モリスといふ牧師たる、思想家であつた。彼れは詩人テニソンの親友で、進歩的思想を持つた人である。氏は婦人の地位に關して種々考へた事がある。それをテニソンと話し合つた事もあらう。そんな事からテニソンは『プリンセス』といふ長詩を書いて、婦人の事を歌つてゐる。

之より逆つて見通すべからざる一人の詩人がある。それはテニソンより更に偉大な詩人ワイヅワスである。これら兩詩人は、共に家庭が圓滿で、立派な人格を持ち、文學趣味を備へた人であつた。かゝる事がやはり詩人の考へを動かしてゐるので、その婦人觀が高い。此夫人は極く落ち付いた貞淑な婦人で、よく家政を治めた人だが此夫人を歌つたワイヅワスの名高い詩がある。此婦人に初めて會つた時は大層氣持は好いが幻のやうで、段々近しくなるとその感じは靈のやうであるがまた同時にやはり婦人である。そして其家庭に於ける行動は輕快で少女らしい自由さを以て歩いてゐる。そしてその顔は今までの事を思へば心持のよい思ひ出が湧き、今後の事を思へば望に満ちてゐると云ふ感じを起す。人を慰め、人を賞め、人を批評する事もでき、接吻する事も、涙を流して微笑する事もできる。結婚してからの彼女は人生の深い祕義を辨へてゐる

婦人で、意志は中庸をまもり、忍耐にして、物を見越す力、物に對する熟練ある完全な婦人である。人を戒め慰め命するやうに氣高く企てられた完全な婦人である。ほんとうに人を愛し敬すればこそ、かゝる事ができるので、婦人ではあるがまた靜な、天使の光の如くにかゞやける氣高い靈である。かう云ふ詩を書いてゐる。此句は自分と同等でない者に對して云へる事だらうか。ワーズワスは之を書いた時には自己と夫人とを必ず同等の地位に、或は一層上に見て書いたかもしれぬ。

シエイクスピアからミルトンを経てワーズワスまで來ると餘程考が進んできた。ワーズワスの考をもつと適切に現はしたのはカヴェントリ・パトモアといふ宗教家詩人である。彼れの長篇『家庭内の天使』第十二歌の中に『結婚せる戀人』と題する一節がある。

これは結婚した男子がその妻に對する考をかけたものである。何故彼女に結婚したに關らずまだ彼女に求婚するか。彼女の魂は靈のやうに常に私に抱擁される事を拒んでゐる。それでまだ結婚しないやうな初々しい心で絶へず彼女に求婚してゐる。それは丁度宮廷で祝節の時女王が出てその手に諸司百官が接吻する時の心持が今の私の心持と全じである。望んで得る事ができる物を皆得られても、彼女の快活な額は、いつも人迹の到らない高い山頂に年中輝いてゐる雪の光のやうに、近づけないものである。私は宮殿の外側は自由に歩く事ができるが、内陣は自分の近づき得ないものである。彼女は私のものでない。決して近づき得ないものだ。といふ意味のことを書いてゐる。妻は一個の人として夫に對するもので決して夫が自由にできるものではない。人と人との魂が火花を發して相對した時は同等のものである。

やはりこの考を現はしてゐるのがテニソンの『プリンセス』(王女)といふ長詩である。北の國の王子と南の

國の王女とが小さい時に、親の間に婚約が結ばれてゐた。王女は當時婦人の地位は低く男子の奴隸の如くなつてゐるのを憤慨してゐた。それで女子大學を設立し大いに女子教育を共さねばならんと決心し之を實行した。その事を聞いて北の國の王子は失望し王は怒つた。南の王にアイダ姫をもとの通りの關係にして呉れと請うた。しかし南の王も王女を自由にする事はできず、女子大學に王女の在る事を告げ得るばかりだ。その校則は、三年の間自分の家の者と交通もできず、學校以外に出る事を許さざるものである。けれど北の國の王子は女装してひそかに女子大學に行く。その大學には評議員すなはち王女の補佐としてサイキーと云ふ夫人がある。此の人は北國人で、その弟は王子の供の者であつた。願書を出し許されて入學し學長の前に立つと、學長の左右には二人の大きな女を置き威風堂々たるものであつた。しかしサイキー夫人は弟が女装してゐる事を發見したが、黙つてゐたのをブンシュといふ評議員が常からサイキーを嫉んでゐるので、此事を知るとや王女に告げた。其爲に王子とその供の者二人とは放校になつてしまつた。それで愈々戦が起つたが、王子が負傷した時に王女は之を看護するやうになり、其他の女學生も皆看護婦になり、その女子大學は病院の如くなつてしまつた。王女はかうして王子を看護し、又サイキーが残して置いた小供を世話する事に依つて全くこれ迄の考へ違ひであつた事を悟り、女の本領は別の方面にある事を考へた。戦が終り、王子と王女とはめでたしめでたしと云ふ風に此物語は了つてゐる。この詩は文學としては價値あるものではないが、最後の所でテニソンが婦人に如何なる地位を與へてゐたかを知るに便利である。王女がサイキーに言つた言葉は婦人は進歩した男ではない、我々が婦人を男子の如くならせようとすれば美しき愛は殺されてしまふだらう。區別ある中に類似があると云ふのが男と女の本領である。結婚して長い年を経につれて段々調和して來

る。氣高い歌に對して着けた完全な音樂のやうに言葉と曲とが調和する情態が、立派な結婚生活である。お互に尊敬しながらその個性に於ては尙も差別を残して居るのである。王子の考は即ちテニスの考である。彼がこの詩で母をモデルにして書いた所には、深い學問あるを要せず、家庭の事がよくできればよい。完全無缺ではなく只人を助ける事ができればよい。地に居て天國を此の世に生み出すやうなつかしい力がある。天と地とを結びつけるものであると言つてゐる。

ミルトンの失樂園の中にも、婦人の美しい事は家庭に於ける善事を學ぶ事と夫の善行美事を勧める事である」とある。しかしテニスの考だけで十分だとは云へぬ。時代の進歩と共に婦人の權利も廣まり之をテニスよりよく現はしてゐるのはブラウニングである。ブラウニング夫人も詩人にして英國の女流詩人として一二を争ふ人であつた。病身であつたに係らず心ばせに於て日常の行に於て夫の爲につくす所が多かつた。此の夫人に付てブラウニング氏は詩を作つた『環と書』といふ二萬餘行から成る詩の第一卷に、抒情詩人なる愛する妻よ、自分は之を書き出すに付て貴方の事を種々思ひ貴方の力もかりねばならん事と思ふと云つた。その詩の最後にはあなたの魂は強い。あらゆる心の中で最も大膽な魂を持つてゐる。神は私に貴方を與へる事により私に最もよく歌を作る事を教へた。私の環は貴方の環より大きいかも知れぬ。しかし質に於て私のが優るとは云へぬ。私のざらざらした黄金の環が、あなたのたぐひ稀なる黄金の環を守り、そしてその類稀なる黄金の環は吾人の英國を伊太利と結びつけてゐるのである。と書いてある當時伊太利はまだ獨立ができず、エマヌエル王の下に志士愛國者が種々計畫を廻らしてゐたのであつた。塊地利が之を壓迫してゐたので、ブラウニング夫婦は之を援け、年中肺患で就床してゐた夫人が伊太利の爲に熱烈な詩をかき、以て伊太

利人を慰め勵ましてゐた。上に述べた詩句の意味は之を云つたのである。またブラウニング夫人の詩に愛と云ふ語に、過去はない曾つて愛したと云ふ語は人生に於ける最悲惨な事であると書いたものがある。曾つて友たりし人曾つて親しかりし人と云ふ事は悲しい事である。我々は友人であると云ふ現在の動詞を用ゐたものである。

どにかくブラウニングは夫人に敬意を持つてゐた。

テニスブラウニング以後の詩人にはかゝる例が幾許もある。幸に歴史の發達と共にワーズワズ、テニスブラウニングを経て次第に婦人の地位が高められた。

大體英文學に於ける婦人觀に付てかゝる發達があるのである。

しかし我々は唯人の事を考へるだけでなく自らの事を考へねばならない。祖國に於てはこの問題は如何に取扱はれてゐるか。此問題を如何に解決し、解決した上で如何に努力すべきか。解決せられた問題を行ふには大なる勇氣と確信とを要する。今此等の問題を提供してあなた方の考を俟つのである。